

概要版【国語科】

国語科において、自分の考えをじっくりく言葉で表現できる児童の育成

-スリーステップによる語彙の獲得・活用の指導と交流から考えを構築する授業展開の工夫を通して-

研究のねらい

令和3年度 前橋特別研修研究員  
前橋市立元総社南小学校 佐股 由季

国語科において、自分の考えをじっくりく言葉で表現できる児童の育成を目指し、「知る」「広げる」「使う」のスリーステップによる語彙の獲得・活用の指導と、友達と交流する「練り上げ時間」から自分の考えを構築する「吟味時間」という授業展開の工夫による有効性を、実践を通して明らかにする。

【児童の実態】

- 語彙が乏しく、気持ちを表す言葉が似通ってしまう。
- 目的や相手に応じて、伝わるように書くという意識が不十分。
- 書いて発表する機会に恵まれ、書くことに慣れている。
- 書く内容や書きぶりについて思い浮かばない児童も見受けられる。

【指導上の課題】

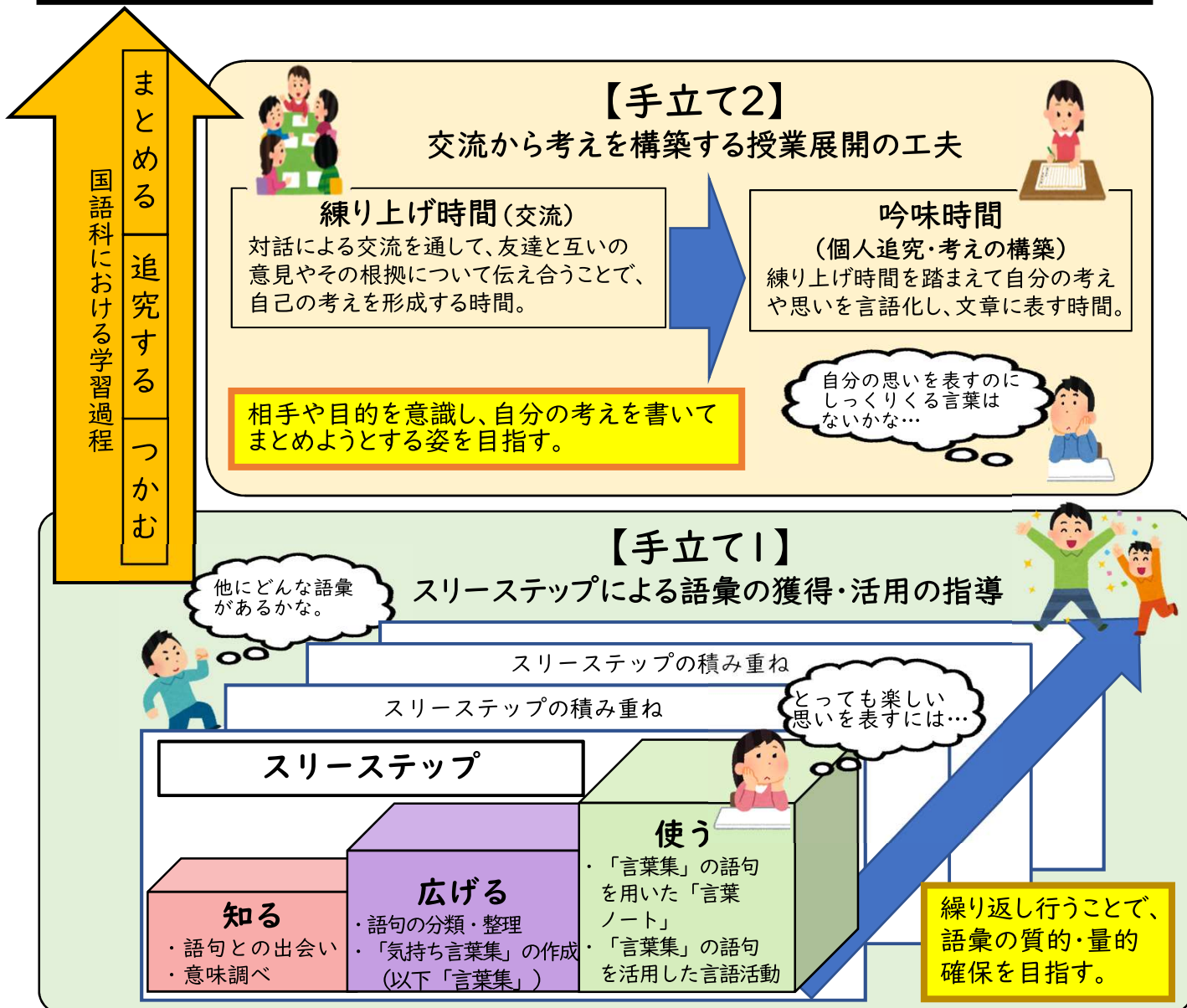
- 言葉の宝箱(教科書巻末)を効果的に活用できていない。
- 言葉を活用する場の設定が不十分。
- 児童が日常的に活用する言葉への関心を高める活動の場の確保不足。

実践内容

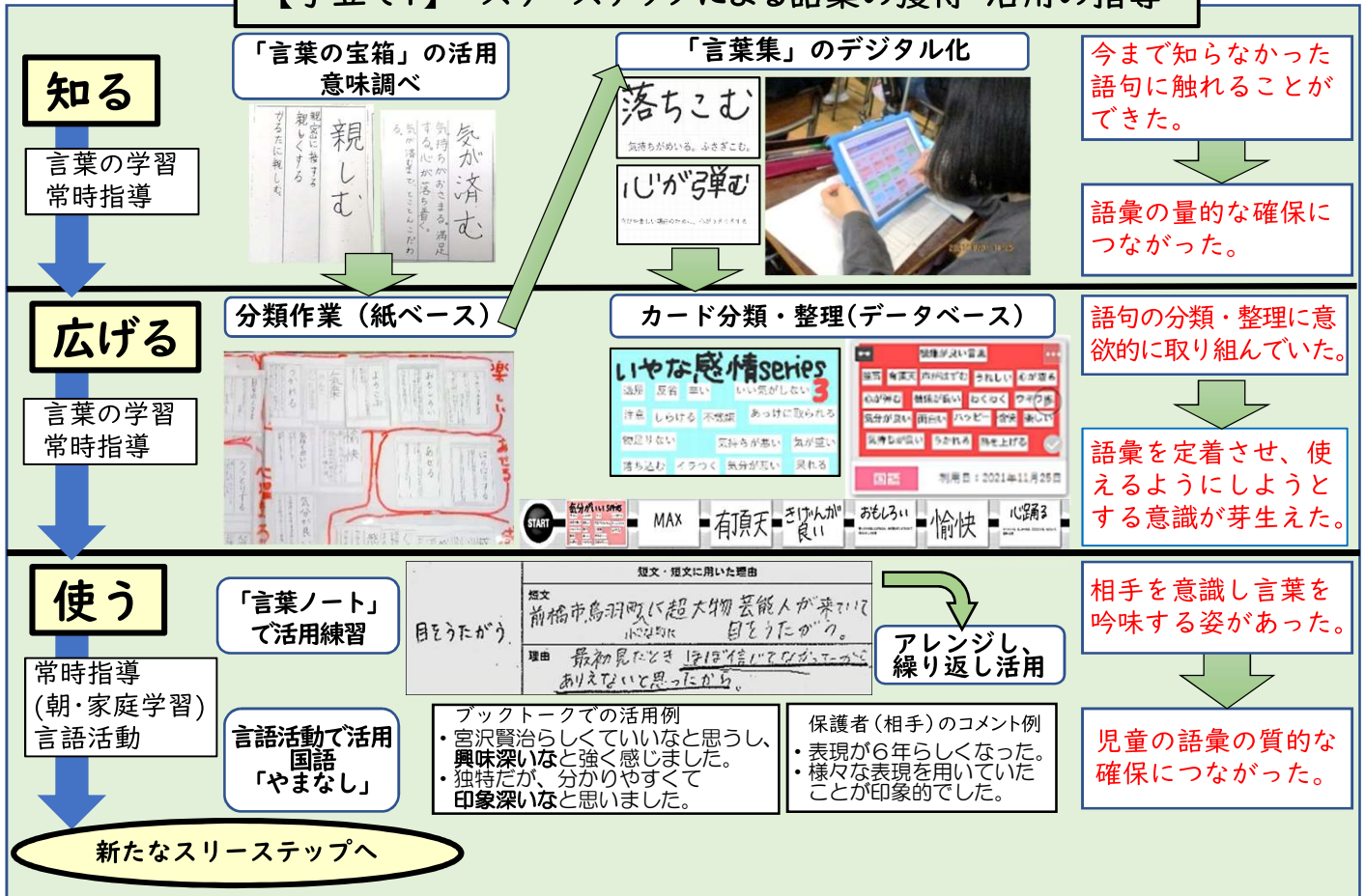
言葉の学習→常時指導

【教科・領域】国語 第6学年 単元「作品の世界をとらえて自分の考えを書こう」

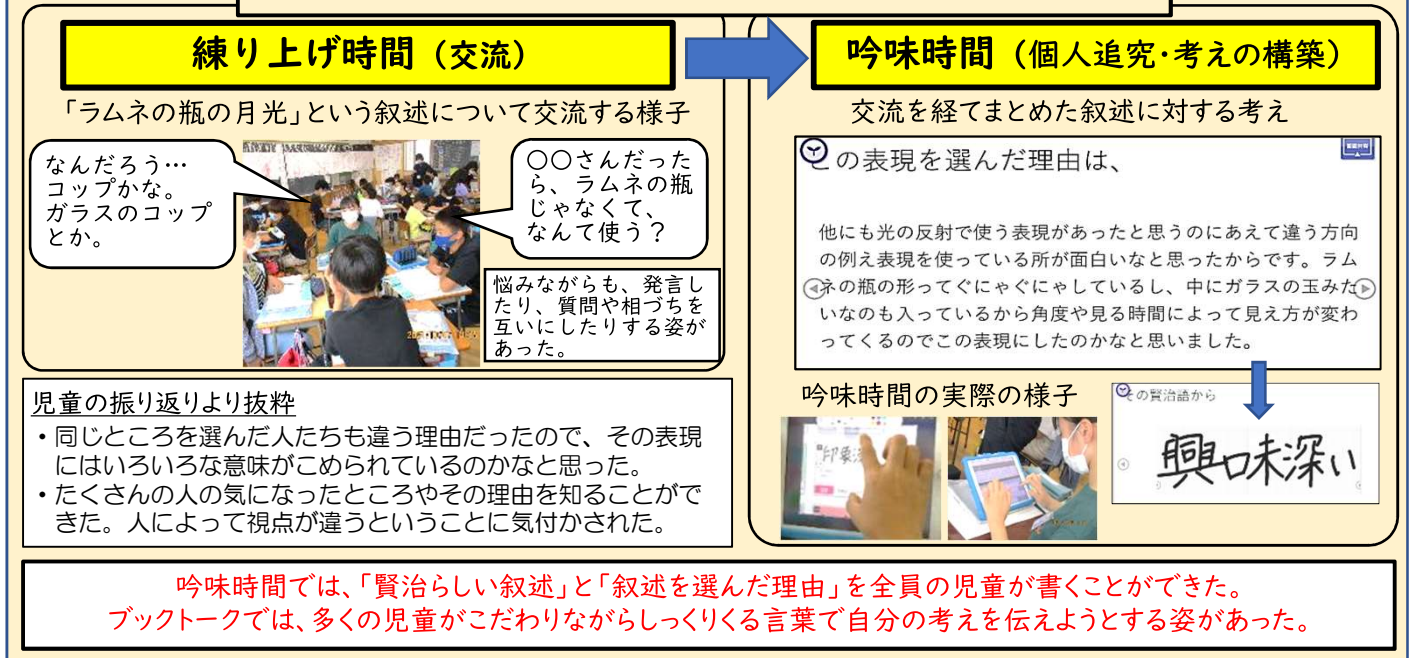
自分の考えや思いをじっくりく言葉を用いながら表現できる児童の育成



## 【手立て1】 スリーステップによる語彙の獲得・活用の指導



## 【手立て2】 交流から考えを構築する授業展開の工夫



### 成果

- スリーステップ活動を繰り返し行った結果、他教科でも言語活動や文章表現の際に、進んで「言葉集」で語彙を探したり、言葉に立ち止まり吟味したりする様子が見られるようになった。
- 自分の考えを表す際に用いる語彙が増え、表現の幅が広がった。
- 交流から考えをもつ流れで授業を行った結果、あいまいであった自分の考えを、交流を通して明確にすることができた。
- 全員が自分の考えを書いてまとめることができた上に、似通った表現ではなく、自分なりの言葉でまとめる児童が増えた。

### 課題

- ◇学習者用端末を用いた「言葉集」の作成に多くの時間を要したため、今後は、作成に時間がかからないように工夫する必要がある。
- ◇分類や情報機器の操作等、児童の進捗状況に応じた個への支援が必要だと感じた。
- ◇児童が選んだ語句についてこだわりをもって明確に説明する段階まで到達できなかったため、継続して「使う」活動に取り組んでいく必要がある。